

大建設計アジェンダ 2015

2015年7月



1. アジェンダ 2015 の策定について

大建設は、2004年に企業活動の基本理念として「経営理念」「設計理念」「行動理念」を策定しました。以後、2008年リーマンショック、2009年民主党への政権交代、2010年欧州ソブリン危機、2011年東日本大震災などを経験したことから、2012年に激変する社会経済環境の変化に対応して、大建設が「健全な経営の持続性ある企業として確たる地位を維持し、創立70周年さらには80周年を迎える」よう、「中・長期経営計画 アジェンダ2012」を策定しました。

本年、節目の2015年を迎えることから、近年の社会経済状況を踏まえた新たなビジョンと今後の行動計画として、「アジェンダ2015」を策定しました。

2. 基本理念

大建設は基本理念として、次の「経営理念」「設計理念」「行動理念」を掲げています。

■ 経営理念

私たちは伝統と歴史の中で育まれた「健全な創造性」と確実な技術に裏付けられた「柔軟な感性」を活かし、優れた環境と建築を創造することで、広く社会に貢献します。同時に、安心して職務に専念できる経営基盤を築き、常に「新しい価値」の創造へ挑戦し続けます。

■ 設計理念

- ・顧客の期待に誠実に応え、信頼を得ることはもとより、より価値の高いものづくりをめざします。
- ・社会の多様な要請に的確に対応し、先見性の高いものづくりをめざします。
- ・環境への負荷を最小限とし、地球に優しく時代を超えて持続可能なものづくりをめざします。
- ・地域の文化・風土・伝統を尊重し、次世代に継承される美しいものづくりをめざします。

■ 行動理念

- ・活力ある組織 個人の自主性や創造性を尊重するとともに、チームワークによる総合力や機動力を高める自由闊達な組織風土をつくります。
- ・総合力の結集 組織内の知恵や技術力にとどまらず、外部の専門家とも連携を図り、広く英知を集め高度な価値の創造をめざします。
- ・自己研鑽 常に自らの創造性や感性を高め、技術を磨き、幅広い知識の習得に努めます。
- ・社会的責任の堅持 法令を遵守し、社会的責任を自覚して行動します。

3. アジェンダ 2015

大建設は「経営理念」に基づき、変動する社会経済環境に柔軟に対応し、持続可能な強固な財務内容を維持しながら、顧客や社会のニーズにより一層の確実な技術と信頼で応える企業活動を推進します。

「アジェンダ 2015」では、「経営理念」「設計理念」「行動理念」に描かれた理想的な大建設の姿を念頭に、3年間の中期計画として次の4つの柱を掲げます。

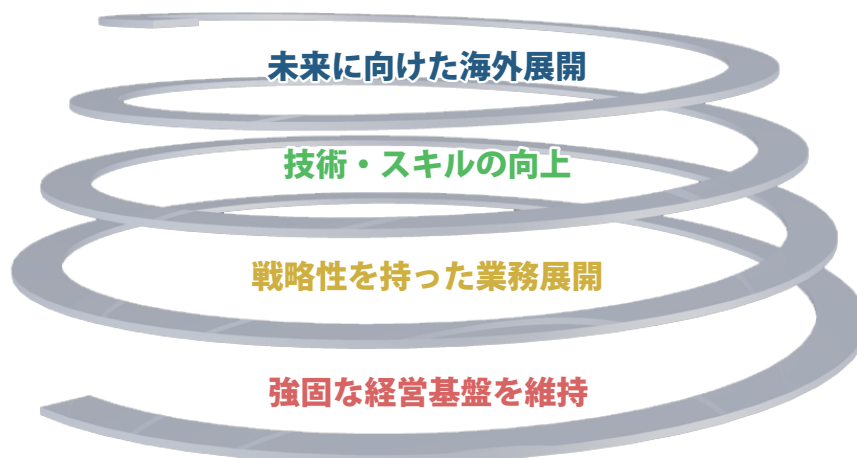
— アジェンダ 2015 の4つの柱 (Action2015-2018) —

建築の生涯をサポートするサステナブルな企業として
強固な経営基盤を維持

お客様や社会のニーズに的確に応える
戦略性を持った業務展開

最適なソリューションを提供する
技術・スキルの向上

世界に羽ばたくグローバル企業として
未来に向けた海外展開



4. アジェンダ 2015 に基づく行動計画

「アジェンダ 2015」に基づき、行動計画を掲げ具体的なアクションを取ることを重視します。

1) 強固な経営基盤の維持

① CSR、CSV の重視

社会に対する責任 (CSR)、社会との共有価値の創造 (CSV) の概念を ISO 品質方針に取組み、様々な分野への社会貢献を目指します。

② 全てのステークホルダーのための企業活動

大建設計は、顧客とその先にある社会全体を最重要のステークホルダーとして捉えます。創業以来 67 年の歴史の中で培われた強固な財務内容を維持発展させながら、顧客、社会全体、社員のための企業活動を推進します。

③ 適正売上、適正利益の維持

適正な売上と利益の確保により健全な経営基盤を維持し、建物の生涯を通じて持続的な顧客サービスを行います。

④ 業務遂行体制の充実

多様化する建築設計への要求に対し、幅広く優秀な人材確保、グループ会社 (大建エンジニアリング、大建情報システム、大建テクノ) の ICT や特殊解析技術を活かした総合力を発揮します。

⑤ ワークライフバランス、ダイバーシティの重視

社員がワークライフバランスを保てるよう、また、ダイバーシティに配慮し、女性やシニア技術者が力を発揮できるよう、働きやすい就業環境を構築し、活力あふれる組織とします。

2) 戦略性を持った業務展開

① 新しい社会ニーズへの業務展開

常に変化する顧客ニーズを的確に捉える「企画本部」を中心に、機動的に対応し業務を展開します。

② コアコンピタンスの更なる展開

エンジニアリング技術を礎に歴史の中で培い特化した分野 (鉄道関連施設、製鉄プラント、生産施設、廃棄物処理環境施設、医療関連施設、教育施設、水族館など生物飼育施設) において、新規顧客への水平展開を図ります。

③ 新分野への挑戦

大建設計の特化した技術を活かし、さらに付加価値を高めることにより、未開拓分野に挑戦し、全方位に業務展開します。

④ 地域密着型の業務展開

大建設計は、各地方事務所が地域のニーズを的確に把握して設計・監理業務に活かす地方密着の組織を構成しています。本社デザインセンターやテクニカルセンターと連携し、様々な課題に対応します。

⑤ 首都圏の業務展開

国家戦略特区としての国際ビジネス拠点関連施設などが求められる首都圏にあつて、全社的な企画力、技術力を結集して様々な分野の業務に取り組みます。

⑥ 未来型の業務展開

多様化する発注形態に呼応し、PFI・PPP・DBO への対応や、PM・CM・FM などに柔軟に対応し、「新しい価値の創造」「より価値の高いものづくり」を探索し続けます。

3) 技術・スキルの向上

①人的資本への投資

技術研修や社外活動を積極的に推進する人的資本への投資により、社員の力ひいては企業力の向上を図ります。

②有資格者の増員

各種資格の重要性を再認識し、有資格者の増員に努めます。

③ IS09001 品質マネジメントシステムの活用

東京・大阪で運用する IS09001 品質マネジメントシステムを全社的な活用に拡大し、品質管理を徹底し、質の高いものづくりを実現します。

④新技術への挑戦

地球環境保全への環境配慮技術として、自然エネルギー活用や木造構造物への展開、また、建物保全と免震活用のレトロフィットなどへ積極的なチャレンジを行います。

⑤BIM戦略の構築

BIM を新しい業務展開において戦略性を持ちながら駆使し、積極的な技術対応を行います。

⑥グローバル人材の育成

外国語のコミュニケーション能力を高め、海外出身者の雇用や人材育成を図ります。

4) 未来に向けた海外展開

①グローバル化への新たな取り組み

国際金融ネットワーク拡大により激変する世界経済、少子高齢化の進行に伴う日本経済の縮小化に対し、国際的な企業としての地位を築くために、グローバル化の重要性を再認識し、より積極的に海外展開に取り組みます。

②海外経験の活用

海外案件の実績を通じて、半世紀以上かけて今日まで社内に蓄積してきた強いグローバル感覚を活かしながら、海外展開に取り組みます。

③方向性を見据えた海外展開

大建設計の特化した分野での展開、海外に進出する日本企業の支援、ODA、海外技術者の活用、海外現地法人の設立など、様々な形態の海外展開が考えられる中、大建設計の力を活かす海外戦略に注力します。

④ネットワークの充実

海外企業と情報交換や業務を通じて盤石な信頼関係を築き、ネットワークの充実を図ります。